

第1回 湯来地域における小学校・中学校の在り方検討会議 意見交換発言要旨

1 検討会議の進め方等について

- 小学校・中学校の児童生徒が減少しており、持続可能な状態ではなくなっていると思う。子どもが減るということは、最終的には地域の存続にも関わってくる。当検討会議により、湯来地域に子どもを増やすための機会としていければよいと思う。
- このように学校の在り方を検討する機会は、これから先ないかもしれない貴重なものだと思う。また、先ほど承認した検討を進める上での4つの留意点は非常に重要なものである。例えば、今後、会議の際にそれらを書いたものを前面に貼り出すなどして、構成員が留意点を意識しながら議論できればよいと思う。
- 当検討会議は、住民主体で学校を作っていく、またとない機会であると思う。会議の中では、学校の統合プロセスや設置場所など、様々な意見があると思うが、まずは、湯来地域の学校の在り方について、最高の形は何なのかということ議論できればよいと思う。湯来の魅力を最大限に活用しながら、こんな学校だったら、どこに設置されても通わせたいと思われるようなものを考えていきたい。その後で、そうした学校をどこに設置するかといった議論になると思う。
- 湯来町にはよいところがたくさんある。子どものためにも、地域に学校は残さなければいけないと思う。学校統合については様々な意見があると思うが、当検討会議の議論がよい方向に進んでいけばよいと思う。

2 学校統合・小中一貫教育校の設置のプロセス等について

- 子どもにとって、他の子どもと日々関わり合うことは、感性を育てることにつながる。例えば、統合して多くの子どもと交流することは、意識・意見の幅が広がることにもつながると思う。また、学力の高い子どもが、大学生等、異年齢の人との交流を行っている事例がある。
- 学校の在り方について、最高の形を目指すということであれば、小学校・中学校・高等学校の一貫校を設置して魅力的な教育を行い、地域外から子どもや子育て世帯を呼び込むくらいのことを行えば効果はないのではないかと。
- 少人数の学校でも、通っている子どもたちは皆明るく、学年が違っても兄弟のように仲良く、幸せを感じながら過ごしている。
- 少人数の学校でも、先生にマンツーマンで教えてもらえるなど、メリットがあるのは確かなことだと思う。現状でも、子どもたちにとって決して悪い状況ではないと考えており、子どもたち自身も満足していると思う。当検討会議では、学校統合ありきではなく、今の学校で、ICTを活用するなど、よりよい教育環境を整備していくことについても検討していただきたい。
- 学校統合について、設置場所については様々な意見があると思うが、小中一貫教育校とすれば、場所は一か所になるので、それが一番望ましいと思う。
- 検討会議に先立って、湯来東小、湯来西小、湯来保育園の保護者約20世帯にアンケートを行った。その中では、湯来東小と湯来西小の統合については多数の保護者から前向きな意見があったが、湯来南小との統合については、慎重に検討すべきとの意見が多かった（構成員より、アンケート調査での意見を配付）。

3 学校及びその周辺に必要な施設等について

- 湯来地域や戸山地域で、子どもが老人デイサービス等を訪問して利用者と交流する取組を行っており、こうした取組は、子どもと地域の高齢者の関係づくりや、子どもの思いやりの心を養うことにつながると思う。仮に学校統合する場合には、老人福祉施設等、公共的な機能を持つ施設を一緒に整備することが望ましいと思う。
- 学習発表会を公民館祭りと併せて行うことで、地域の方とも交流している。仮に新しく学校を作るのであれば、公民館を一緒に整備することが望ましいと思う。
- 子育て世帯がその地域に住むかどうかを考える際には、保育園や学校なども重要だが、公園や病院が整備されているかということも重要な要素になる。湯来地域においては、子どもが遊べる場所が少なくなっている。遊べる場所を整備することで、運動能力の向上にもつながると思う。
- 教育のデジタル化が進んでいるため、ハコモノとしての学校にはそこまでこだわらなくてもよいのではないかと。それよりも、学校の周辺環境や教育内容について検討していったほうが。

4 教育内容等について

- これからの時代は、学力の格差よりも感性（ものごとに感動・共感する気持ち）の格差が大きくなることが予想される。デジタル技術が発達する中でも、感覚的なものが重要である。海外でも、子どもが感性をしっかりと養うための教育が進められており、そうした教育を受けた子どもは、はっきりとした目的意識を持ち、自発的に勉強に取り組み、次の時代を作っていく。そうした状況の中、湯来町の学校がどのような方向に向いていくのかということは大変重要となる。
- このまま子どもが減少していけば、湯来町の存続にも関わる。そうした中で、地域住民もしっかりと関わった、魅力的な教育環境があれば、それを目指して地域外からでも移住する人が増える可能性が高まる（構成員より、長野県の私立小でのイエナプランの導入等、特色ある教育に取り組んでいる事例を参考資料として配付）。
- 現在、教育のデジタル化が進められているが、重要なのは、データをどう使うかという判断力や、コミュニケーション能力、語学力など、人間力を高める教育であると考えている。当検討会議では、教育の在り方そのものについても考えていければよいと思う。

【順不同、分類は教育委員会教育企画課による】